

第1回 奈良交通路線バス(北田原線)利用促進に向けた三者協議概要

日 時 令和6年2月21日(水) 午後7時00分～午後8時30分

場 所 南田原町集会所

参加者 北田原町8名、南田原町16名、星和台4名

事業者：奈良交通株式会社3名

行 政：生駒市(事業計画課)3名

話 題 (1)北田原線の現状と今後の方向性

(2)取組み事例紹介

(3)今後の予定

概要

(1) 北田原線の現状と今後の方向性

- ・行政から、資料1(P1～4)「現在の協議体制・三者協議の位置付け」の説明があった。
- ・事業者から、資料1(P5～7)「北田原線の現状と再編案について」の説明があった。
- ・行政から、利用促進策は次回検討することとして、今回は現状の共有、疑問点の解消の機会としたい。参加者の方には積極的に質問、意見をいただきたい、との説明があった。
- ・参加者から、バスの運賃も上がって、コロナ禍も落ち着き観光客も増えているが、それでも減便を行う予定なのか。という意見があった。
- ・これに関して、事業者から、運賃改定は収支改善が目的ではなく、不足する運転者を確保するための待遇改善の原資とする目的であり、コロナ禍から回復したといってもコロナ禍前と比べると9割程度の回復で1割は収入が落ちたままである。インバウンドの獲得のため、外国人対応できるスタッフの採用といった努力は行っている。北田原線の赤字は大きい、生駒市全体で収支均衡になれば路線の維持は可能である。という回答があった。
- ・行政から、資料1(P9～10)に基づき、市内全体での収支均衡についての説明があった。
- ・参加者から、減便するにしても通勤・通学の時間帯は避けてほしい。という意見があった。
- ・これに関して、事業者から、朝夕の通勤・通学の時間帯が一番バスと運転者が必要な時間帯で、そこを減らさなければ費用が減少しないため、減便の目的である収支の改善が図れない。という説明があった。
- ・参加者から、日中の1時間に1本のバスに合わせて買い物や通院をしているため、その減便がないのは安心だが、朝夕の通勤・通学の方に乗ってもらうためには啓発が必要。100円でバスに乗れるといった取組みや援助はできないか。という意見があった。
- ・これに関して、行政から、市内全体で3000万円分の利用というのは、資料のとおり市民の利用で達成できる数字と考えている。去年の8月にはバス運賃100円DAYを実施し、どんどこ祭りの開催日である5日には普段の1.5倍も利用があり、こういった取組みを通じて市内全体でバス利用を増やしていきたい。合わせて、各沿線地域の利用促進も今後大事になってくると考え、この三者協議を開催している。という説明があった。
- ・参加者から、市全体の年間バス利用者数は何人か。という質問があった。

- ・これに関して、行政から、市内を運行する路線の令和３年度利用者数は 762 万人。奈良市や四條畷市にまたがる路線については、市外の利用者も含まれていると思われる。という説明があった。

(2) 取組み事例紹介

- ・行政から、資料 1（P11～27）に基づき、北田原線の収支均衡、利用促進の方向性、市の利用促進の取組み、住民による利用促進の取組み事例（市内）の説明があった。
- ・行政から、高山町の自治会では健康増進の取組みとして、バスで少し遠くまで行って歩いて帰るという歩こう会イベントを開催している。自治会のイベントにひと工夫加えることで、バス利用促進に繋がられる。という説明があった。
- ・参加者から、来てほしいところにバスが来ていない。運行ルートや乗り換え利便の向上も検討してほしい。北田原線は生駒駅までしか行けないので、登美ヶ丘イオンまで行けるようになると便利。という意見があった。
- ・これに関して、事業者から、新たな需要の掘り起こしについては今後議論が必要とは認識しているが、やはり駅にいろいろな目的の利用が集中するため、そこを中心とした路線として考えざるを得ない。買い物利用だけで路線収支の均衡は難しい。という説明があった。
- ・参加者から、利用促進の取組みは急には難しい。ひかりが丘生駒ニュータウン線の三者協議ではコンサルタントから事例紹介があったので、そういう情報も必要。2 月の運賃改定で 3000 万円赤字がどう変わっているのか、最新の数字をわかり次第教えてほしい。それが今後の協議のベースになるはず。という意見があった。
- ・これに関して、行政から、まだ運賃改定後の実態はつかめてない状態なので、わかり次第共有する。という説明があった。また、他市町村での利用促進の取組みについて、資料 1（P28～34）に基づき説明があった。

(3) 今後の予定

- ・行政から、資料 1（P35～36）に基づき、今後の予定の説明があった。
- ・行政から、今回の協議会の内容に関するニュースを作成予定との説明があった。
- ・行政から、ニュースを地域で回覧し、新たな協力者を募りながら、次回に具体的な利用促進策を検討したい、との説明があった。
- ・参加者から、ローカル鉄道でやっているようなキャラクターバスを走らせてはどうか。北田原線は小学生が通学バスとしても使っているの、減便になるとスクールバスが必要になり、市の負担が大きくなる可能性もある。そのあたりも考えながら子どもの学習環境も守ってほしい。という意見があった。
- ・参加者から、再編案の実施は令和 7 年 3 月まで延期となっているが、検討・試行・検証が必要かと思うので、この三者協議はどのようなスケジュールか示していただきたい。また、三者協議に参加できない人の意見も、次回までに持ち寄る方法（ポストイット配布など）を検討してほしい。加えて、バスへの自転車持ち込み OK にできないか。という意見があった。
- ・これに関して、行政から、再編案について、事業者も減便をしたいと思っているわけではなく、収支均衡が図れなければ減便せざるを得ないという考えなので、まずはこの三

者協議で取り組みを検討、実施し、利用者増加の兆しを示すことが大切。バスの自転車持ち込みの意見も、こういう場で示せば、事業者で取り組んでいってくれるはず。実際、ひかりが丘生駒ニュータウン線の三者協議で出たポスターコンクールについては、事業者の取組として、そのうち3枚をバス3台の後ろにラッピングしていただける予定。参加できない方の意見は、ぜひ地域の皆さんで拾い集めてきてほしい。北田原線に限定した取組み以外にも、市全体の利用促進については、ご提案いただければ市として取り組んでいく。今後の目標として、令和7年3月までにこの三者協議で何か1つでも取り組みができていくような状況までもっていきたい。という旨の説明があった。

- ・参加者から、三者協議に参加するメンバーの年代が偏っているので、参加の少ない若い世代をターゲットにした取組みとして、youtube の活用が考えられる。沿線の中で youtuber を育てたり、沿線の心霊スポットを youtube で発信したりといった、次世代の利用を促進する取り組みをするのも良いのではないか。という意見があった。
- ・これに関して行政から、ご意見のとおり、若い世代も1つのターゲット。次回までに若い世代の意見も含めていろいろな意見を持ち寄っていただき、ブラッシュアップしていきたい。という説明があった。